

進路だより

北九州市立特別支援学校

北九州中央高等学園 進路支援部

令和7年3月24日(月)

第38号

◆一年間の成長を確認してみましょう◆

明日から春休みに入りますが、この一年間で生徒たちも、いろいろなことを経験することで、様々な面で成長を見ることができたのではないのでしょうか。ご家庭でも学年の締めくくりとして、今年度を振り返り、頑張ったことやできるようになったことなどを一緒に話し、あらためて生徒たちの成長を確認してみましょう。



はる やす
春休み

卒業後の生活を考えた時、生徒たち一人一人にあった「生きる力」が必要です。「生きる力」をつけていくためには、日々の家庭生活や学校生活で、自分でできることを増やし、できない時に、他の人に依頼ができたりすることが大切です。『自分でできること』『自分の力でやり切れたこと』は、喜びや満足感、自信にも繋がりますし、将来、就労を目指している生徒たちには、作業能力の向上にも繋がっていきます。是非この春休みに規則正しい生活を送り、これからも自分でできることを家庭生活中で増やし、本人なりの『自立』へ一歩でも近づけるように頑張っていってほしいです。

家庭生活の中には、「生きる力」の向上や仕事に繋がることが、たくさんあります。

- 自立とは…①経済的自立(自分で働いてお金をかせぐ 金銭管理も含む)
②生活的自立(衣食住に関して身の回りのことを 自分でする)
③精神的自立(自分で考え行動する 自己選択・自己決定する)

◆一年を振り返って◆～保護者と共に育てる『共育』の大切さ～

産業現場等における実習などの関係で、進路支援部として今年度も約100近くの企業や障害福祉サービス事業所にお伺いし、卒業後『社会人として』『大人として』『在学中に身につけておいてほしい力』など色々とお話する機会がありました。その中で、生徒自身の働く力や実態もありますが、重要視しているのが、「充実した家庭生活」「保護者の協力」でした。企業や障害福祉サービス事業所がいくら頑張っても、「充実した家庭生活」「保護者の協力」なしでは、子どもたちは成長できません。特に「保護者の協力」ということで、保護者の気持ち優先して『自己選択・自己決定』できていない生徒は、仕事に関して自己判断ができにくく、何事にも他の人に依存し、仕事も続かないようです。企業側が、「雇用しない」、障害福祉サービス事業所側が「契約を結ばない」となると、企業で働くことも、障害福祉サービス事業所を利用することもできないのです。お互いがお互いを理解し、協力し合って一人の人を育てていきたいと企業や障害福祉サービス事業所も考えています。そのためには生徒を温かい気持ちで見守り支援し、生徒に関わる人たちと学校、保護者が共に育てていくという『共育』という姿勢が大切になってきます。

